

教育委員・社会教育委員意見交換会におけるワークショップ R5.10.23（月）

<社会教育の現状と課題>

- 忙しい保護者が多く、イベントや講座等に参加してもらいにくい。（関心度が低い傾向）
- 子育て世代は時間がなく、社会活動の優先度が低くなってしまいがち。
- 親の都合で子どもたちの活動に制限を加えてしまっており、多様な経験の機会が不足している。
- 働き方改革をしていく中で、保護者世代も時間を捻出しないと社会教育に携わることすらできず、一番後回しになってしまっている現状がある。
- 親は我が子のためなら動けるし、我が子につながる社会教育なら携われる。
- 学校と地域で「どんな子どもを育てるか」の議論が十分ではない。
- 学校園における支援活動と協働活動のすみわけが明確になっていない。
- コミュニティのつながりが薄い。
- 団体の高齢化にともない、活動を継続していくことが困難である。
- 経験者が不足していて、なかなか後継者につながらない。
- 働き盛り世代は多忙なため、社会教育活動も後継者不足。
- 活動組織には新しいメンバーがなく、世代間交流したくてもできない。
- 働くことの意義ややりがいを学ぶ機会が不足している。
- 社会に向けての活動が少ない。
- 家庭によって本（読書）に対するの取り組みに差がある。
- 教育大綱が市民にあまり認識されていない。
- 社会を生き抜くための学びや人間力を鍛える場が必要。
- 生きづらさや障がいがある人が参加できる学びの場が必要。
- あらためて社会教育の役割を認識する必要がある。
- 社会教育を知ってもらう活動が必要。
- 学校教育と社会教育の役割分担が必要。
- ウェルビーイングの実現には、社会教育と生涯学習の2つの軸が必要。
- 社会教育において子どもから大人までライフステージに応じたステップアップが必要。成長していく過程での縦の軸が必要。
- 地域社会への参画を促していく必要がある。
- イベントや事業によって「何が得られるか」「何のために行っているか」など実施する目的を明確にする必要がある。
- 社会教育は幅が広く、日常に関わるすべてで、生きる上で必要なことを学ぶのが社会教育である。人生においてとても大事なことであり、しっかりと取り組んでいく必要がある。
- 社会教育は子育て世代に必要なことであるため、理解や認識を促す必要がある。
- 学校と地域との間に隔たりを感じるため、大人が社会教育にどう取り組んでいくか考える必要がある。
- 現行の教育大綱には「競争」という概念がないが、社会とは競争するものであるため、子どもたちにはある程度競争させることも必要。
- 子どもたちの得意や強みを引き出し、それぞれが一つでも輝けるものを持てる必要がある。

<課題に対する解決策・提案>

- 従来のやり方にこだわりことなく、しくみを変える。
- きっかけや仕掛けを作る。
- 子どもの声やニーズを聴き、その思いを地域の取組に反映させる。
- 親同士や団体同士が緩やかなつながりを作り、交流する。
- 進んで行動に移す。あるいは、進んで動いてくれる人材を発掘する。
- 活動に中高生を巻き込む（子どもの居場所づくりや地域活動への関わりを持たせる）。
- （次回の参加意欲につながるよう）イベントや講座実施後のレポート（報告）の発信、共有により、楽しさを伝える。
- 必要な人に必要な情報が届くよう、告知の仕方を工夫する。
- 効果的な告知（SNSの活用・クチコミ）をする。
- 他団体とつながり、団体同士のコラボをする（力を借りる）。
- 団体や組織、あるいは行政の情報などをつかんでおくことで、可能性を考える。
- キャリア教育の入口として、企業や店舗もまきこんで、地域のさまざまな仕事を知る。
- 社会人になっても、いつでも、誰でもが学べる仕組みを整える。
- 社会教育と地域の教育力との連携を強化する。
- 大人と子どものつながりなど世代間交流の機会を増やす。
- ITCとの共存など変化に対応していく力をつける。
- 五感を通した自然体験や多様性を学ぶ場を創出する。
- 地域の力を借りた自然体験。自然が豊かな生駒だからこそできる体験がある。
- 子どもが手を離れたときに、時間ができた人が社会教育の場に携われるようにする。
- 親の姿勢が子どもに反映する。親が地域に出ていく時間を作る。
- 子育てが終わった後も、子どもを通して行っていた活動を継続できるように促し、担い手を増やす。

